

Tensor

第3回 中部オープンイノベーション・フォーラム

2026年10月1日

Tensor Energyについて

グローバルチームでテクノロジーを起点に世界のエネルギー問題に挑むスタートアップ



共同創業者/代表

堀　ナナ

14年以上にわたり再生可能エネルギー業界で戦略コンサルティング、太陽光発電プロジェクト開発、ファイナンスと事業開発を経験。



共同創業者/代表

フィルター　ヴィンセント

戦略コンサルタントで、脱炭素に情熱を持つエンジニア、プロダクトマネージャー。デザイナーとして20年以上の経験を持つ。



執行役員/COO

代田　聡

総合商社を中心に、電力・エネルギー、インフラの分野で30年を超えるキャリアを持つ。国内外で、事業の立ち上げからそれを支える管理・実務まで幅広く携わってきた。



データサイエンス

イアコブッチ　リカルド

京都大学で博士号を取得下電力システム工学の研究者。物理シミュレーションとアルゴリズム開発をリードする。



プロダクト

ワツケ　セバスチャン

Googleや楽天で経験を積んだ、プロダクトマネジメント、開発、技術統合、ソリューションデザインのプロフェッショナル。



事業開発

古賀　康吉

電力・分散型アセットの領域において、法人営業・事業開発・アライアンス構築に実践的な経験を持つ。



再エネファイナンス

中川　力介

ベンチャーキャピタリストとして投資やファンドレイズに従事。後にテック業界・再生可能エネルギー業界で経理・財務、事業経営企画を経験。

会社名	**Tensor Energy株式会社**
所在地	**福岡市中央区天神1-11-1**
代表者	**堀　菜々　フィルター・ヴィンセント**
設立日	**2021年11月**
累計資金調達額	**16.5億円**
主要株主	**デライト・ベンチャーズ、FFGベンチャービジネスパートナーズ、ジェネシア・ベンチャーズ、グローバル・ブレイン、グロービス・キャピタル・パートナーズ、 みずほキャピタル、PlugAndPlay Japan**

Tensor

分散する自然変動電源による発電は
総発電量の25%を占める

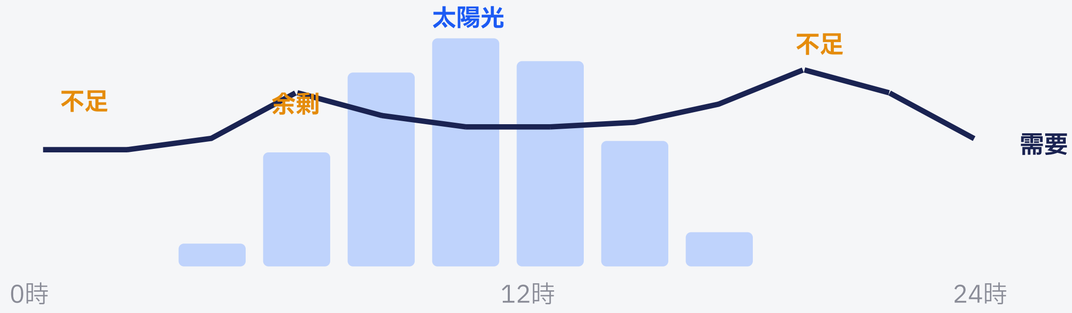


同時同量：2つの時間軸で、発電と需要を合わせ続ける

「時間帯のギャップ」と「瞬間のズレ」は別の問題。どちらも蓄電池が解決策になる

① 時間帯のギャップ

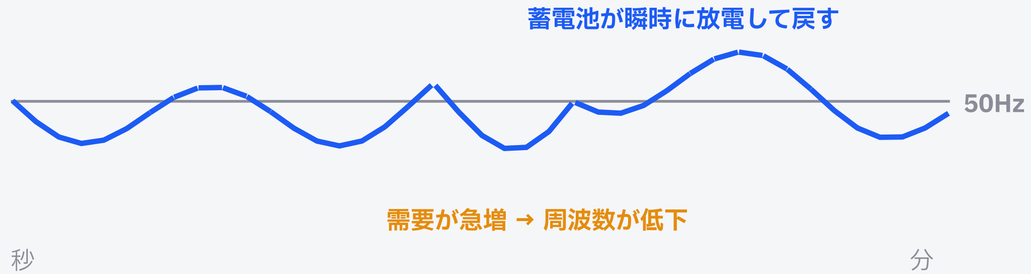
kWhを動かす｜時間軸：数時間



起きること	昼は太陽光が余り、朝晩は足りない
今の対応	余剰は出力制御、不足は火力の焚き増し
蓄電池の役割	昼に充電し、朝晩に放電。JEPXの価格差で収益化

② 瞬間のズレ

周波数を保つ｜時間軸：秒～分



起きること	雲や設備停止で一瞬ずれると、周波数が変動
今の対応	火力や揚水を秒単位で上下。調整力が不足していく
蓄電池の役割	秒単位の充放電でズレを吸収。需給調整市場で収益化

Tensor

蓄電池は再エネ時代の最重要電源として急速に導入が進む

変動する太陽光を制御するために、余剰の電力を溜めたり吐き出したりすることができる蓄電池の導入が急務



キーポイント

- これまではガス火力や揚水発電で賄われてきたが、太陽光発電の成長スピードに追いつけない
- リチウムイオン電池は、分単位、秒単位の充放電ができるため、瞬間的な需給バランスのブレ（周波数）を調整すできる
- 太陽光発電と同様、比較的短期間で導入、また分散して設置が可能

しかし、蓄電池を「動かして稼ぐ」のは簡単ではない

計画・取引・管理のすべてに専門性が要る



収益の見通しが立たない

収益は市場価格次第で、固定価格の発想では試算できない



複数市場で24時間の取引

JEPXと需給調整市場はルールも入札単位も違う。毎日判断し、秒単位で制御する人手がない



精算・予実管理の手間

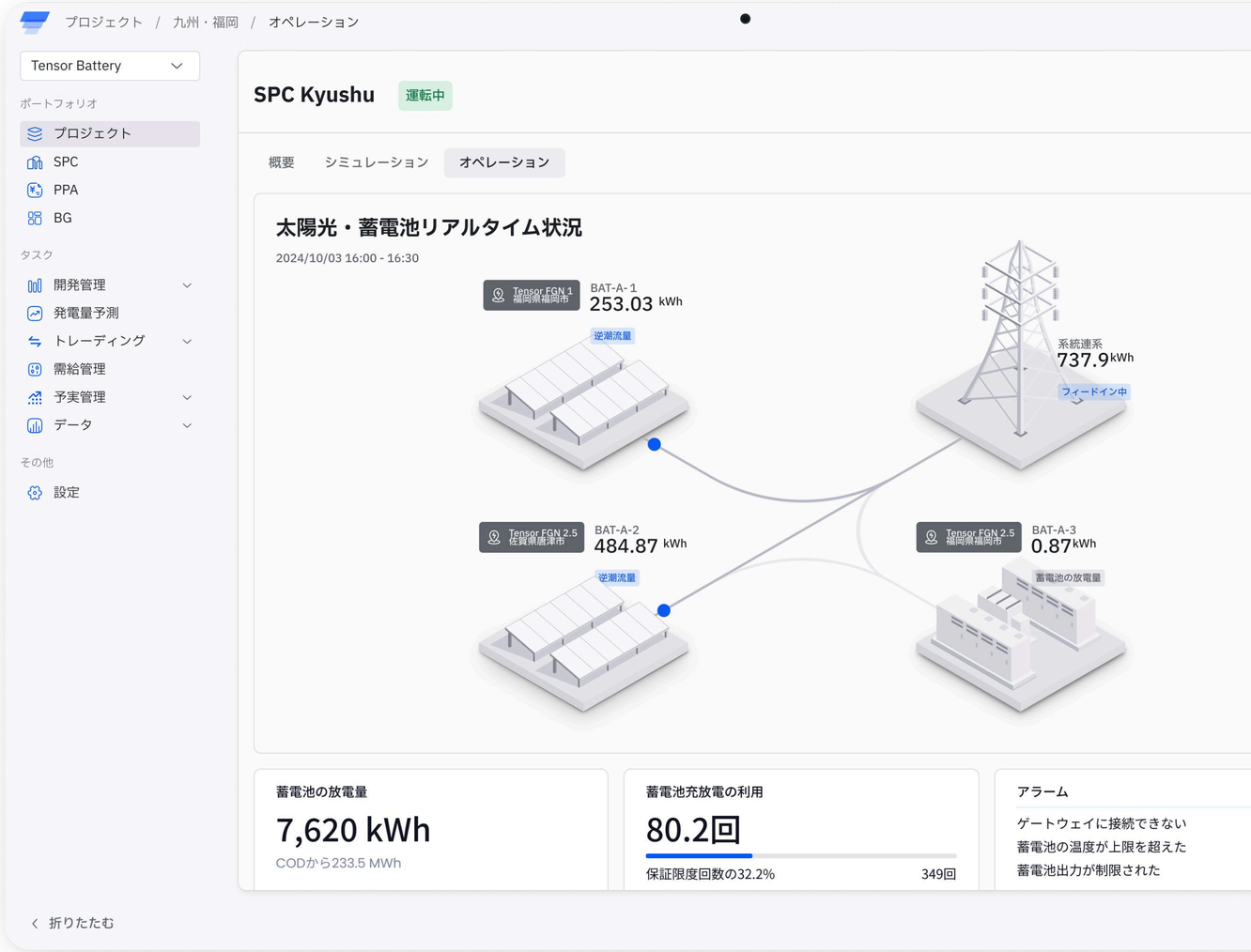
市場ごとにバラバラな約定・精算データを突き合わせ、月次で報告する手間

次世代の電力を支える、再エネと蓄電池のオーケストレーション

太陽光発電由来の電力を、蓄電池の最適制御技術を用いて、必要なときに、必要なところへ届ける仕組み

Tensor Cloud

予測・入札・制御・精算を自動で行い、
アグリゲーションとアセットマネジメントの
自動運転を実現する電力AIプラットフォーム



再エネ発電事業の価値を最大化する一気通貫の事業パートナー

関わり方は3つ。どこまで任せるかで選べる

自社コントロール ⟷ Tensorに委ねる

自社運用
（SaaS - Tensor Cloud）

自社で運用したい事業者向け

- 発電量と市場価格をAIが予測
- 複数市場を横断して自動入札・制御

アグリゲーション委託
（Tensor アグリゲーション）

運用を任せたい事業者向け

- Tensorがアグリゲーターとして市場取引を代行
- 運用負荷ゼロで収益を享受

再エネアセット投資
（Tensor アセットマネジメント）

出資して資産運用を任せたい投資家様向け

- Tensorがプロジェクトを組成・取得
- 申請から運用、財務管理までワンストップ

Tensor

日本初の大型併設蓄電池を27ヶ月運用してきた業界のパイオニア

東京センチュリー社との共創の取り組み



- 8ヶ月かけて、蓄電池を用いた電力取引の機能を共創
- 業務フローから共同で検討し、プロダクトとして開発
- 2024年6月運転開始。国内初のFIP併設蓄電池として日経新聞等で紹介

- 2025年夏から需給調整市場へ参入
- 2026年春、入札から充放電制御まで完全自動化

Tensor

運用実績・パイプライン

これまでの主な実績と今後のパイプライン

沿革

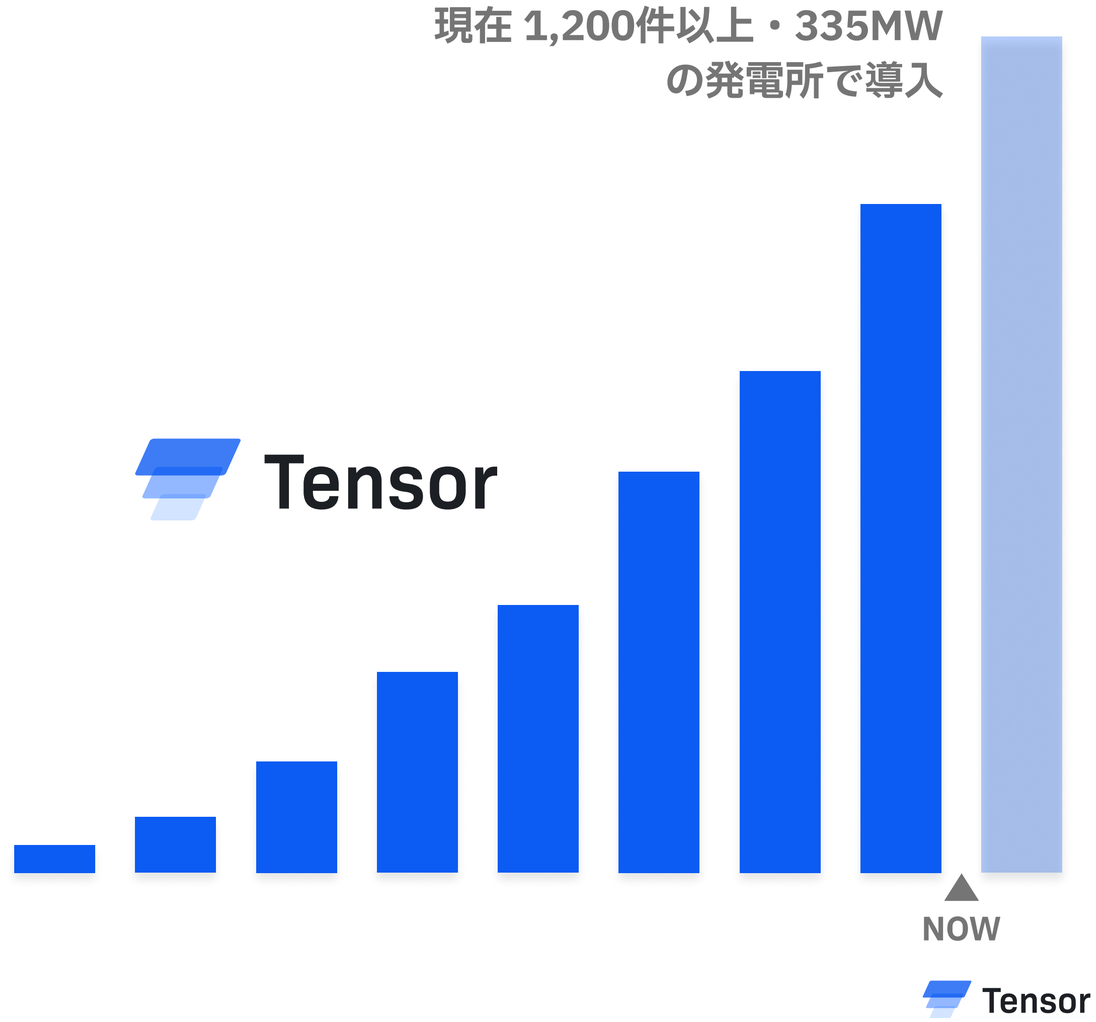
2021年
- 創業

2023年
- Tensor Cloud 発電量予測をローンチ
- 再エネアグリゲーション実証事業に参加

2024年
- **東京センチュリーと国内初の大型FIP併設蓄電池の運用開始（荒尾）**
- 特定卸供給事業者の届出

2025年
- **オンサイトPPAの余剰電力取引支援を開始**
- 併設蓄電池で需給調整市場への参加を開始

2026年
- シリーズAクローズ。累計16.5億円を調達
- 蓄電池オートパイロットをリリース（取引・計画提出・制御を自動化）
- **東京センチュリーと系統用蓄電池事業で包括業務提携**
- **導入発電所数1,200件以上、合計容量335MW以上を突破**
- **低圧系統蓄電池アグリゲーション受注開始。申込パイプライン5,000件・1GWh**



ここからは中部の話。蓄電池が必要になる入り口に立っている

昼の太陽光はエリアの最小需要を超えた。増やすには「動かす手段」が要る

1,198万kW
太陽光・風力の連系量（2024年3月末）

990万kW
中部エリアの最小需要（2023年度）

0.3%
出力制御率。九州の約10分の1

昼の太陽光は需要を上回る

晴れた休日の昼は、太陽光の行き場がない

工場は夜も動く

製造業は夜も電気を使う。昼の太陽光だけでは再エネ率は頭打ち

脱炭素の要請は強まる

取引先からの再エネ調達要請は年々強まる

出典：中部電力「再生可能エネルギーの最大限の活用に向けた取り組み」（2024年5月）、ISEP「2024年の自然エネルギー電力の割合」ほか

中部エリアにおける3つの課題

中部の工場・事業所で伺う3つの声

01 **再エネ率を増やせない**

昼間に余ってしまうので、20%程度が限界

02 **BCPの蓄電池が、動いていない**

補助金で入れた蓄電池が、非常時の備えのまま止まっている

03 **市場で動かすノウハウがない**

複数市場での24時間の取引と精算は、自社では回らない。1MW未満は単独参加もできない

Tensor

蓄電池ビジネスは、置く場所で3つに分かれる

動かして稼ぐ仕組みは同じ。違うのは、誰の資産で、どこに置くか

FIP転＋蓄電池併設

既存の太陽光のとなりに置く



誰の資産　太陽光発電所のオーナー

何をする　既存の太陽光に蓄電池を後付けし、FIPへ転換

収益源　高い時間帯に売電（JEPX）

こんな方に：太陽光をお持ちの事業会社・地場企業

低圧系統蓄電池

土地と接続枠だけで、単独で置く



誰の資産　投資家・土地を持つ事業会社

何をする　遊休地に蓄電池を新設し、系統に直接つなぐ

収益源　JEPX＋需給調整市場

こんな方に：遊休地をお持ちの企業、金融・不動産

需要家併設蓄電池

工場・事業所の中に置く



誰の資産　工場・事業所（需要家）

何をする　工場の蓄電池を、自家消費と市場運用の両方に使う

収益源　電気代削減＋市場収益＋BCP

こんな方に：工場・事業所をお持ちの製造業

Tensor

工場・事業所の蓄電池を、「守り」から「稼ぐ」資産へ

需要家併設蓄電池を新規事業として開発中。PoCパートナーを募集します

「お守り」の蓄電池を、平常時も働かせる

御社の蓄電池は、平日の昼間、何をしていますか

・BCP用の蓄電池は、非常時以外は止まっている
・平常時は市場運用とピークカットで稼ぐ
・非常時のBCP容量はそのまま確保
・運用はTensorが担い、事業者側の負荷はゼロ

収益はPoCで個別に試算します

PoCパートナー募集｜2タイプ

対象となる事業者

①BCP等で蓄電池を設置済みの事業者

②補助金で設置を検討中の事業者

PoCで進めること
・既設蓄電池の運用診断
・設置・収益の試算
・Tensor Cloudで試験運用

工場・事業所単位で、まず1拠点から

Tensor

すでに太陽光をお持ちなら、その資産をそのまま「稼ぐ資産」に

持っている太陽光・蓄電池・土地を、Tensorが運用で活かす3つの方法

お持ちの資産	今、起きていること	Tensorがやること	こう変わる
FIT太陽光	FIT期間の終了や出力制御で売電収入が減る	蓄電池を後付けしてFIP転。市場価格の高い時間帯に売電	**収益を回復し、出力制御の影響を回避**
社有地・遊休地	土地はあるが活用の目処がない	低圧の接続枠を活かして低圧系統蓄電池を開発・運用。JEPX・需給調整市場で収益化	**土地が収益資産に変わる**
拠点に分散する太陽光・蓄電池	管理がバラバラで、全体の収益が見えない	Tensor Cloudで一元管理。予測・運用・精算を自動化	**経営・投資家向けの収益レポートまで出る**

Tensor

中部で皆さんと一緒に取り組んでみたいこと

蓄電池を「動かして稼ぐ」を、この地域の資産から始めたい

①

需要家併設蓄電池のPoC

求めるパートナー

蓄電池を設置済み、または補助金で設置を検討中の工場・事業所

お願いしたいこと

蓄電池の仕様と電力データの共有、Tensor Cloudで試験運用

②

保有再エネ資産の有効活用

求めるパートナー

FIT太陽光や社有地・遊休地をお持ちの会社

お願いしたいこと

保有資産の一覧の共有、診断からの検討

③

共同投資

求めるパートナー

地域の金融機関、リース会社、不動産会社

お願いしたいこと

TensorONEを通じた蓄電所・発電所への共同投資

お問い合わせ：hello@tensorenergy.jp

Tensor

Tensor Energy

Thank you

お問い合わせはこちら
hello@tensorenergy.jp

Confidential and proprietary. Any use of this material without specific permission of Tensor Energy is strictly prohibited. This document is intended to provide insights based on currently available information for consideration and not for specific advice.